

2 だいず・そば・あずき病害虫

(1) だいず病害虫の要防除水準

カメムシ類の要防除水準

圃場内での調査を行い、カメムシ類の発生状況を的確に把握した上で、要防除水準に基づく効率的な防除を実施し、環境負荷の少ない防除を推進する。

1 要防除水準

8月下旬（圃場侵入期）は100茎あたり0.3頭以上、9月中旬（発生最盛期）は100茎あたり4.0頭以上の場合は防除する。

2 調査方法

8月下旬と9月中旬に1圃場あたり100茎ずつ3か所の見とり調査を行う。

フタスジヒメハムシの要防除水準

1 要防除水準

8月下旬（第2世代成虫発生最盛期）に払い落としを行い、1.5m、2条当たり約70頭以上の場合は直ちに防除する。

2 調査方法

長さ150cm、幅80cmの払い落とし用シートを条間に広げてシートの両端から2人で両側の株をたたき、成虫をシート上に落とす。1圃場につき、3か所行う。

葉焼病の要防除水準

1 要防除水準

開花期に発病葉率16.5%以上は、ただちに防除する。

2 調査方法

開花期に圃場内で発生が多い場所を選び、10株以上の全葉数および発病葉数を調べ、発病葉率を求める。

(2) 大豆薬剤一覧

RPA

病害虫名	防除時期	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	備考
紫斑病	播種前	キヒゲンR-2フロアブル	チウラム水和剤	M3		乾燥種子1kg当り原液20mL		は種前	塗沫処理	1回	
		クルザ-MAXX	チアトキサム・フルジ・オキニル・メタラキシルM水和剤	4A,1 2,4		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
	開花後 20～30日	アミスター20フロアブル	アゾキストロピン水和剤	11		2000～3000倍	100～300 μ L/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1000倍	100～300 μ L/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	
		ファンタジスタフロアブル	ヒリベシカルブ水和剤	11		1000～2000倍	100～300 μ L/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
						16倍	0.8 μ L/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内	
		アミスタートレボンSE	エトフェンプロックス・アゾキストロピン水和剤	3A,1 1		1000倍	100～400 μ L/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	
						8倍	800mL/10a	収穫21日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
	トライフロアブル	テブフロキン水和剤	U16		1000倍	100～300 μ L/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内		
					8倍	0.8 μ L/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	2回以内		
開花期後 15～30日	Zボルト-粉剤DL	銅粉剤	M1		3kg/10a		-	散布	-		
葉焼病	初発時 (7月下旬頃)	フェスティバルC水和剤	ジメトモルフ・銅水和剤	M1,4 0		600倍	100～300 μ L/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
茎疫病	播種前	クルザ-MAXX	チアトキサム・フルジ・オキニル・メタラキシルM水和剤	4A,1 2,4		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
アブラムシ類	播種前	クルザ-FS30	チアトキサム水和剤	4A		乾燥種子1kg当り原液6mL		は種前	塗沫処理	1回	
		クルザ-MAXX	チアトキサム・フルジ・オキニル・メタラキシルM水和剤	4A,1 2,4		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
	生育期	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000～3000倍	100～300 μ L/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
		マラソン粉剤3	マラソン粉剤	1B		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
タネハエ	播種前	クルザ-FS30	チアトキサム水和剤	4A		乾燥種子1kg当り原液6mL		は種前	塗沫処理	1回	
		クルザ-MAXX	チアトキサム・フルジ・オキニル・メタラキシルM水和剤	4A,1 2,4		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	

病害虫名	防除時期	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	備考
ネキリムシ類	播種前	クルザ [®] -FS30	チアトキサム水和剤	4A		乾燥種子1kg当り原液6mL		は種前	塗沫処理	1回	
		クルザ [®] -MAXX	チアトキサム・フルジ [®] オキニル・メタキシルM水和剤	4A,1 2,4		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
カメムシ類	若莢～子実肥大	MR.ジ [®] ョーカ [®] 粉剤DL	シラフルオフェン粉剤	3A		4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	失効
		アルパ [®] リン粉剤DL	ジ [®] ノテフラン粉剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
		エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		カスケド [®] 乳剤	フルフェノキサロン乳剤	15		4000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
						32倍	0.8 μ g/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
		スタークル液剤10	ジ [®] ノテフラン液剤	4A		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
						8倍	0.8 μ g/10a	収穫7日前まで	空中散布	2回以内	
						8倍	0.8 μ g/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
		スタークル粉剤DL	ジ [®] ノテフラン粉剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
		スミチオン粉剤3DL	MEP粉剤	1B		4kg/10a		収穫21日前まで	散布	4回以内	
		ダ [®] ントツ [®] H粉剤DL	クロチアジ [®] ン粉剤	4A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
		トレボ [®] ン乳剤	イトフェン [®] ロックス乳剤	3A		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	
		トレボ [®] ン粉剤DL	イトフェン [®] ロックス粉剤	3A		-	4kg/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	豆類(種実)
		アミスタートレボ [®] ンSE	イトフェン [®] ロックス・アゾ [®] キシストロビ [®] ン水和剤	3A,1 1		1000倍	100～400 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	
					8倍	800mL/10a	収穫21日前まで	無人航空機による散布	2回以内		
	若莢～子実肥大 期 8月	ダ [®] イジ [®] ン粒剤5	ダ [®] イジ [®] ン粒剤	1B		4～6kg/10a		収穫30日前まで	散布	4回以内	
シロイモシ [®] マダ	若莢伸長期	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1500～2000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ダ [®] イジ [®] ン粒剤5	ダ [®] イジ [®] ン粒剤	1B		4～6kg/10a		収穫30日前まで	散布	4回以内	
		トレボ [®] ン乳剤	イトフェン [®] ロックス乳剤	3A		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	
		パ [®] マチオン水和剤	フェンパ [®] レート・MEP水和剤	1B,3 A	劇	1000～2000倍	100～300 μ g/10a	収穫21日前まで	散布	3回以内	
		トレボ [®] ン粉剤DL	イトフェン [®] ロックス粉剤	3A		-	4kg/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	豆類(種実)

病害虫名	防除時期	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	備考
マメシクイカ	子実肥大初期 8月	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
ダイズヤママ ハエ	開花終期～子実 肥大初期 8月上旬～中旬	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		8倍	800mL/10a	収穫21日前まで	無人航空機による散布	4回以内	
		ダイズノン粒剤5	ダイズノン粒剤	1B		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫21日前まで	散布	4回以内	
ウコンメカ	7月下旬～8月 はじめ	ダントツH粉剤DL	クロチアミン粉剤	4A		4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
		プレバソフアブル5	クロラントラニリブ ロール水 和剤	28		4000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ヨーパブルアブル	テトラニリブ ロール水 和剤	28	16～32倍	0.8 μ g/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内		
					5000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内		
50倍	1.6 μ g/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内							
ハスモンヨトウ	生育期 若齢幼虫期	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		トレボン乳剤	イトフェンブ ロックス乳剤	3A		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	
		トレボン粉剤DL	イトフェンブ ロックス粉剤	3A		-	4kg/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	豆類(種実)
		プレバソフアブル5	クロラントラニリブ ロール水 和剤	28	16～32倍	0.8 μ g/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内		
					4000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内		
		ベネビアOD	シアントラニリブ ロール水 和剤	28		2000～4000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
		マトリックアブル	クロマフェジド 水和剤	18	2000～3000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内		
8～16倍	800mL/10a				収穫前日まで	無人航空機による散布	3回以内				
ハダニ類	生育期	マラソン粉剤3	マラソン粉剤	1B		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
フタスジヒメハムシ	播種前	クルザ-FS30	チアトキサム水和剤	4A		乾燥種子1kg当 り原液6mL		は種前	塗沫処理	1回	
		クルザ-MAXX	チアトキサム・フルジ ル・メタキシルM水和剤	4A,1 2,4		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
	8月下旬 第2世代発生期	アクロシン乳剤	シベルメリン乳剤	3A	劇	2000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
		アルパリン粉剤DL	ジノテフラン粉剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
		スタークル液剤10	ジノテフラン液剤	4A		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		スタークル粉剤DL	ジノテフラン粉剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ダントツH粉剤DL	クロチアミン粉剤	4A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	

(3) だいでず注意事項

紫斑病

- ・子実肥大期に雨が多いと多発する。
- ・種子伝染するので、優良種子を使用しクルーザーMAXXによる種子消毒を行う。
- ・耐性菌が発生している。
- ・耐性菌の発生を抑制するために、系統の異なる2剤を選択し、開花後20日目とその10日後（開花後30日目）に体系で散布する。
- ・アミスター20フロアブルは開花後20～30日目の1回散布でも効果がある。

葉焼病

- ・初発時に効果の高いフェスティバルC水和剤を施用し、病害の蔓延を防ぐ。
- ・発生が多いほど小粒比率が高くなり減収する。
- ・里のほほえみで発生が多い。

黒根腐病

- ・排水不良田での発生が多く、一度発生すると、根絶することが困難。
- ・立枯れした株を抜くと、ゴボウ根になっており手応え無く抜ける。株元に赤い子嚢殻が発生することがあり、発生が広がると減収する。
- ・発生した圃場は3年以上水稻を作付けし、菌の密度を下げる。

カメムシ

- ・8月20日頃と9月10日頃の2回防除すると効果が高い。
〔耕種的防除〕
- ・圃場周辺を除草する。

ダイズサヤタマバエ

- ・山間、山沿いで発生が多い。

ウコンノメイガ

- ・葉が巻きはじめる若齢幼虫期に防除する。
- ・山間、山沿いで発生が多い。

ハスモンヨトウ

- ・早期発見に努め早めに防除する。
- ・白変葉が見え始めた時に、分散前に防除する。